

I : きょくたん？

A : きょくたん、学校の中でみんなで授業する時間とかあるんですけど、その中の一時間か2時間を取り出して、他の先生と勉強するんですよ、日本語。

I : で、それは、ハーさん以外に、あーそうか、他にいなかったんですよ。そうか、そうか、他にいなかったから、ハーさんと、その先生というのは何の先生？

A : 日本語の先生。

I : それは、いつも学校にいるって言う先生じゃないん？

A : じゃない。

I : あー、わざわざ、じゃあ、週に一回とか来てくれて、ハーさんに日本語を教えてください。

A : はい、そうです。

I : その他に、ありましたか？

A : その他は、やっぱテレビで、あとはテレビを見て、わかんないと言葉とかあったら、紙に書いて、あの、その時はボランティア通ってたんですよ。そこで、その先生に聞いて、これはどういう意味ですか、とか、全部渡して、その紙に書いてあることをいろいろ、その、意味を説明してもらって、勉強する。

I : その最初の学校からこっちに移ってきてからはどうですか？学校に通ってることに関して、学校の中で日本語の勉強をするような機会とかあったんですか？

A : いえ、なかったです。

I : それは、こっちに移ってきた小学校も、中学校も、そこにさっき言ったみたいに時間を割いて日本語を勉強するとか、あとは、担任の先生が放課後にちょっと教えてくれるとかいうこともなかったんですか？

A : 全然、なかったです。

I : じゃあ、こっちに移ってきてから、外国人の他の友達と勉強するというようなこともなかったんですか？

A : はい。

I : じゃあ、家ですね、家庭の中で日本語の勉強を教えてくださいとか、ってことはありました？お母さんが教えてくれるとか？

A : いえ、逆に私が教えてるんです。

I : じゃあ、今日本語の勉強に関して言うと、特別してるっていうと、自分で勉強するのと、それから、ちょっとボランティアに通うのと、あとは、

A : テレビ。

I : あとは、テレビですか？テレビ、雑誌？

A : あー、そうです。

I : いま、ちょっと日本語の話でしたけど、その、学校の勉強ですよ。最初こっちに来たときは、だいたい、そのさっきも笛の話もありましたけど、向こうでやってたことと

こっちでやってることは全然違くなってことでしたよね。そういうのをどんどん付(??)いていけなくちゃいけない。そうなった時に、日本語の勉強をつまり、普通の授業をやっていたのでは、ついていけないから、補修とかあったんですか？

A : 補修は、特になかったですね。

I : 学校の中で、誰か補修してくれるというようなことは今まで、なかったんですね。学校の先生が補修してくれるとか。そうすると、

A : もしわかんないことがあったら、先生に聞いたりして教えてもらうこととかあるんですよ。

I : それは授業の後とかで、聞きにいて、じゃあ、わざわざ時間を取ってというのはその場ではなかったことですね。

A : まあ、そうですね。

I : じゃあ、そうすると、どういう形で勉強していたんですか。学校の勉強のほうは。

A : 学校の勉強のほうは、宿題があったらちゃんと家でやることと、日曜日、毎週勉強に通ってるんですよ。ボランティアの方で。そこで、もし一週間勉強したことで、わからないことあったら、もう全部日曜日に、まとめて聞くんですよ、勉強して。

I : それは大変だったのかな、結構？

A : えー、はい。

I : そうなる前までは、学校の授業はだいぶわかりました？

A : まー、大丈夫になった。

I : 大体いつ頃から、その追いつけるようになった？

A : 大体、一年前くらい

I : じゃあ、それまでは勉強、勉強だったんですか？

A : そうですね、必死だったです。

I : とうことは、今まで、その日本語の勉強、学校の勉強にしても、一番便りになったと言うと、ボランティアになるんですか？

A : そうですね。ボランティアの先生で、その中でもすごい親しい先生がいて、その先生に毎週土曜日、私の家に来て勉強教えてもらったんですよ。それで、もっと上達できたんですけど。それは、もう、大体2、3年続けて、もう、やめてしまったんですよ。

I : それはやらなくなったというのは、もうだいぶ、できるようになったからということですか？

A : まあ、その他にもいろいろあるんですけど。

I : ハーさん、こっちにいるようになってから、勉強とかだけじゃなくて、生活全般について、いろいろ困ったこととか、悩みとかいろいろあったと思うんですけど、そういうのは、相談とかは誰にしてみましたか？

A : えーと、毎週土曜日

I : やっぱり、そのボランティアの先生？

A : そうですね。

I : その先生は勉強だけじゃなくて、そうしたこっちにきての不便だとか、いろんな文化の違いとかで、いろんなことを教えてくれたんですね。

A : そうですね。一番頼りにしてた先生で、いろいろ教えてくれたんですよ。スピーチコンテストに出たのも、その先生が進めてくれたから、私、出たんです。

I : こんなところですかね。ご苦労様でした。

(終了)

名称 21 世紀の共生社会を考える会

代表者 宮崎 里司 (早稲田大学日本語研究教育センター助教授、Ph. D.)

所在地 〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-7-14-704

連絡先 Tel. 03-5286-3923 Fax 03-3203-7672